

## 9/11 列王記第一 3 章 1—9 節「神の知恵で生きる」

小池 宏明 牧師

去年は、イスラエルの歴史の中で、ダビデ王がイスラエルを治めるところまで辿ったが、今日からは、ダビデからソロモンへ継承された王国の歴史を見ることになる。

### \*ソロモンの願いと主の御心

イスラエルの王として歩み出したソロモンは、当時、聖所のあったギブオンで礼拝を捧げた。主なる神様は、ソロモンに顕われて「何を願い求めるのか？」と問い掛けた。ソロモンは主の御前で謙遜に大勢の民を治めるために善悪を判断する心を願い求めたのだ。(6—9 節)

ソロモンの願い求めは、主の御心に叶うことだった。ソロモンは、長寿も、富も、敵を打ち負かす力も求めず、主なる神様の御心に叶った知恵と判断力を願い求めたので、主は、ソロモンに民を治めるための知恵も判断する心も与えると約束された。そして願わなかった富も誉れも、長寿も与えようとおっしゃられた。

「見よ、わたしはあなたが言ったとおりにする。見よ。わたしはあなたに、知恵と判断の心を与える。あなたより前に、あなたのような者はなく、あなたの後に、あなたのような者は起こらない。そのうえ、あなたが願わなかったもの、富と誉れもあなたに与える。あなたが生きていくかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者は一人もいない。また、あなたの父ダビデが歩んだように、あなたもわたしの掟と命令を守ってわたしの道に歩むなら、あなたの日々を長くしよう。」

(10-14 節)

この後、ソロモン時代にイスラエル王国は大繁栄し、領土も一番広がることになった。また、聖書にはソロモンの知恵の書と言われる、箴言や伝道者の書、雅歌などが納められ、世界中で読まれ、親しまれている。まさに主が語られた言葉のようになった。

一方で、ソロモンは異邦の女性と結婚し、偶像の神々を崇める祭壇を一掃することができなかった。(1—3 節)

### \*神の知恵を求め続けて生きる

ソロモン王は、最初の頃は、神の知恵で生きるという立派な信仰を示していたが、その信仰を忍耐強く継続することができなかった。私たちはこのことを教訓にして、常に、主なる神様の御心を祈り求めながら生きる者でありたい。